

令和3年度第1回小牧市食育推進会議（書面開催） 記録

- 1 開催期間 令和4年1月24日(月)～令和4年2月11日(金)
- 2 開催方法 書面にて各委員から意見聴取
- 3 委員 倉橋伸子、夏目有紀枝、三輪雅一、竹内友康、青山勉、
佐藤英治、千田道子、熊澤嘉乃、齊藤公彦、松浦康子、
倉知日出美、堀尾由香里、藤本佳代

4 議題

(1) 令和3年度小牧市食育推進活動報告について

【倉橋委員】【夏目委員】

- ・ 地元野菜の販売、農作物の品評会・即売会について、会員の高齢化や出品点数の減少は大きな問題であるが、地元産の農作物をアピールできる場は大切にしたいものである。コロナ禍であるため、対面販売は難しいが、少人数の人員で、販売規模も調整しやすいドライブスルー販売、ネット販売の活用を推進してはどうか。
- ・ 野菜栽培や稲作、桃収穫などの農業体験について、子どもの教育や育成に良い影響を与える試みであり、継続して実施していただきたい。コロナの問題が落ち着けば、大学生の参加や協力も検討していきたいと考えている。収穫物をいかしたメニュー考案、実用化したメニューの地元飲食店での提供など、収穫したものが美味しく消費されるまでの過程をフォローしていくことも検討材料である。
- ・ 食育に関連した活動については、市の広報誌などでの紹介を継続していくことが大切であると考えている。食育劇「食まるファイブ」は、資材やシナリオを提供して現地で上演することにより教育的効果が得られる面もあるが、すでに演劇化した動画の配信（オンデマンドやDVD）も並行して実施すると、いつでも視聴できて利用しやすいのではないかと考えている。動画であれば黙食も可能であるため、時世に合っているのではないかと考えている。
- ・ PTA や他機関との連携については、オンラインや紙媒体での情報提供を継続的に行うことが大切であると考えている。PTA を介して、保護者から献立のアイデアを募集し、優秀作品は給食献立に取り入れるなど、保護者を取り込んでの食育活動を行ってはどうか。
- ・ 環境に関する問題について、廃食用油の回収は、ウェブでの紹介や、地元商店などと協力して周知を図ることが大切ではないかと考える。エコライフチェックシートの計算は、Google Forms などを導入するのは難しいのだろうか。

【竹内委員】

- ・ 新型コロナウイルス感染症によりイベントが中止になり、十分な活動が行えなかった。しかし4月に「小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例」が制定され、小牧市歯科医師会にとっては大きな前進であった。これを市民に広く周知し、口腔の健康が全身の健康に強く関連していることを理解してもらいたい。

【佐藤委員】

- ・ 第3次小牧市食育推進計画に掲げる基本目標の達成に向けて、「子ども食堂運営の支援」や「地元野菜の販売」など、ライフステージや生活場面に応じた各種取組を推進されていると思う。
- ・ コロナ禍により体験やイベントが制限され、活動が困難な場面もあると思うが、それぞれの課題や問題点を踏まえ、取組みを推進していただきたいと考える。

【千田委員】

- ・ 人生100年時代を迎えるにあたり、自分の健康は自分で守ることは、今後ますます必要になってくると思う。学校でも、栄養教諭や栄養職員と協力し、さらに食育に取り組んでいきたい。

【熊澤委員】

- ・ 様々な場で食育に関する取組が行なわれていることを知ることができた。特に小牧市内で子ども食堂が運営されていることは知らなかったので、地域の保育園でPRできるとよいのではないかと思った。

【松浦委員】

- ・ 何とかコロナ禍の合間をかいくぐってシニアカフェとやさしい在宅介護食教室は実施することができた。
- ・ 私たちは子供の食育に重きを置いてヘルスサポーター21事業と、小学校の調理補助をやってきたが、今年も実行することが困難だった。
- ・ 農業祭、地区健康展において一日350gの野菜摂取を呼びかける機会を失った。小牧市広報にレシピを年間6回掲載した。

【倉知委員】

- ・ 食育に関する取組み一覧の様式について、「今後の課題・問題点」に事業の内容を書いている場合と課題を書いている場合がある。分かりやすくするため、右の欄に「実施内容」とし、課題については

一番下の欄へ記載するようにはどうか。

【堀尾委員】

- ・ コロナ禍の中、どの団体も素晴らしい活動をしていてすごいと思う。

(2) 食育の推進に関する課題、今後取り組みたい事業など

【倉橋委員】

- ・ 食育の推進については、これまでの取り組みの成果を踏まえながらも、コロナ禍における食育活動の方法を検討することが求められる。検討する視点としては、それぞれの活動の目標にあわせて、ウェブやオンデマンドを活用した情報提供や、オンラインによる新たな交流を展開し、「新しい生活様式」に沿う食育活動の在り方を検討する必要がある。加えて、このコロナ感染拡大による市民の健康面における影響等を調査することにより市民の健康課題を明らかにすることも検討する必要がある。
- ・ 本学の管理栄養学科は食や健康に関する課題解決に向けて学生が主体的に取り組むことを教育活動の一環としている。計画的に市民の健康問題に関わることができる体制づくりも含め小牧市の健康づくりに寄与できることを検討したい。

【夏目委員】

- ・ 現在はコロナ禍で難しい面もあるが、大学や研究機関と協力して体力チェックなどを実施し、小牧市民の直面する健康上の問題点を抽出し、将来的には栄養あるいは運動介入によって継時的な変化を確認していくことも小牧市民の健康づくりに寄与できるのではないかと考えている。
- ・ 生活習慣病予防においては、少しでも若い年代から予防意識を持たせることが課題の1つである。近年、肥満児の約2割がメタボリックシンドロームであるという報告もあり、小児期からの健康管理の重要性が注目されている。若い年代でも興味を引くようなアプローチで生活習慣病のリスク、予防の意義を周知していくことが大切である。小牧市から近い場所に名古屋経済大学の管理栄養学科があり、管理栄養士や栄養・健康分野の専門家が在籍しているので、そのマンパワーを存分に活用していただきたいと思っている。

【竹内委員】

- ・ 今後の課題としては「小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例」の市民への周知と今年度行えなかった「歯ぴかピック」の開催。口腔機能発達不全症の理解を広く市民に周知していくことである。

【青山委員】

- ・ 県教育委員会との連携協定締結を機に、JAとして管内小学校での

食農教育が充実するよう展開する。食・農に触れる小学生を増やしたい。小学校、地域の農家、JAが連携して食・農の学びを支援する。

- ・ 農家の高齢化の為、今後継続した活動において連携した取り組みが難しくなっている。

【佐藤委員】

- ・ コロナ禍の中、実施方法について工夫した事例（非対面の研修やSNSを用いた情報発信など）などがありましたら、教えてください。（小牧市の実施事業で事例があれば教えてください）
- ・ 小中学校における農林漁業体験学習の推進に向けて、実施現場での課題や意見（地域での協力者がみつからない、近隣に体験可能な場所がないなど）などがありましたら、教えてください。（把握されている範囲でかまいません）

【熊澤委員】

- ・ 園児への食育推進には、保護者の関心を得ることも大切だと考える。
- ・ 家庭でも楽しく食べることができるように、今後も栽培活動や簡単メニューの紹介等、親子で興味関心を持てるような発信をしていきたいと思う。

【松浦委員】

- ・ 市民の方に健康への関心をよりもっていただくには対面の会話が一番早いですが、コロナ禍において一番弱いところでもある。
- ・ 1人1人が自分の持っている知識を周りの方に伝えていく方法を模索している。
- ・ フレイル予防の食事を皆さんに知っていただくため、集めたレシピ資料を公表する機会を探している。ウィズコロナの時代を踏まえて小学校の調理実習の補助に参加できる道を探っている。

【堀尾委員】

- ・ 市民講座を開催したいと思う。

【藤本委員】

- ・ コロナ禍で、家で食事をする事（時間）が増えたので、食卓での会話で食材について話すきっかけ作りに野菜の苗のプレゼントはいかがでしょうか。種をもらっても植える人は少ないと思うのですが、苗なら“植えてみよう”と思うはず。園児か低学年生など、親子が成長を楽しみ食する事が出来れば、買い物に行ってもその野菜を見つけたりして、興味を持ってくれるのではないのでしょうか。